

# 旭川偉人伝

名譽三冠 囲碁棋士  
(名誉棋聖・名誉名人・名誉碁聖)

## 小林光一さん

市制施行100年を超える旭川市。その歴史は大きな志を抱いた、先人たちによる、挑戦の積み重ねです。このコーナーでは、全国や世界で活躍されている旭川市出身の方をご紹介します。



聞き手  
今津 寛介

いまとすけ

ひろすけ

日本の囲碁界をけん引してきたレジェンド棋士  
数々のタイトル連覇記録を樹立し、3つの名誉称号を獲得するなど、囲碁界の歴史に名を刻んだ旭川出身の小林光一さん。現在も現役棋士として活躍し、今なお囲碁界に影響を与え続けている小林さんに、囲碁との出会いやプロ棋士としての歩み、旭川への思いなどを今津市長が聞きました。

### 人生を決定づけた囲碁との出会い

**市長** 小林さんは小学校まで旭川で過ごされたんですね。

**小林** 永山に住んでいて、正和小学校（大雪通8）に通っていました。当時、寒さが厳しくマイナス30度の日もあつて学校が休校になることもありました。冬は歩いて通学していたので自然と足腰が鍛えられ、弟と一緒に相撲大会に出場したこともあります。

**市長** 小学2年生の時に囲碁を始めたのですが、その出会いはどういうものでしたか？

**小林** 父が囲碁を楽しむ姿を見て、自然とルールを覚えました。週末に碁会所に通つていつの間にか夢中になつていました。今考えると、囲碁を始めたからは学校の成績が上がりましたね。

**市長** 囲碁は文化のまちで、囲碁も盛んですね。当時、碁会所はどれくらいの数あったのでしょうか？

**小林** 最近では、試合で中国に行つたり、交流戦で韓国にも行つたりしています。囲碁はやっぱり面白いですね。今は、最先端AIがすごいですよ。シミュレーションを瞬時に行い、勝つための最適な手を計算します。人工知能の研究が非常に速く進み、ここまでくるとは思いませんでした。棋士はAIを活用して学び、そこから自分らしさを出していけたら良いと思っています。

**市長** 小林さんは、今なお現役で、日本だけでなく世界で活躍されていらっしゃいますよね。

**小林** 最近では、試合で中国に行つたり、交流戦で韓国にも行つたりしています。囲碁はやっぱり面白いですね。今は、最先端AIがすごいですよ。シミュレーションを瞬時に行い、勝つための最適な手を計算します。人工知能の研究が非常に速く進み、ここまでくるとは思いませんでした。棋士はAIを活用して学び、そこから自分らしさを出していけたら良いと思っています。

**市長** プロ棋士としての歩みを教えてください。

**小林** プロになつても内弟子生活は続いている、高校にも通つていきましたが、囲碁に集中するため1年で辞めました。

**市長** 政治家の囲碁会へ指導を行つていた時期もあります。政治家で財務大臣なども務められた与謝野馨先生のところにも2年ほど教えに行つっていました。

**小林** 政治家は囲碁を打つ方が多く、与謝野馨先生はアマ七段の実力でした。

**市長** 結果が出せるようになつたのは遅く、決して順調ではなかつたです。四冠を達成した後、相次いでタイトルを失い無冠の危機に追い込まれた時期もありました。勝負の世界の厳しさと怖さを何度も実感しましたね。せつかくつかんだ大きなタイトルをそつ簡単に手放したくないという強い思いがあつたので、連覇を成し遂げることができたのかもしれません。

**小林** 毎年夏に家族で旭川に帰ります。旭川を思い出すことはありますか？また子供たちに向かたメッセージをお願いします。

**市長** 初の名人位を獲得した時的小林さん



大会等で獲得したトロフィー

思います。自分の興味を持つるものを感じます。自分の興味を持つものを感じます。囲碁や将棋、スポーツなど、競争の中で学べることは非常に多いですし、それが成長の糧になります。

旭川の素晴らしい環境の中で、たくさんの経験を積み、どんどん羽ばたいていくつほしいですね。自分の追求するものを見つければ、きっと面白い人生になりますよ。僕はちょっと変わった人生になりましたけどね（笑）

**小林** そうですね。僕がいた頃、碁会所は30か所ほどあつたようです。地方棋士六段の早勢勝美先生がやつていらした旭川囲碁会館には強豪がたくさん集まり、私はそこへ行くのが楽しみでした。

**市長** そこからプロの道に進むことになつたきっかけを教えてください。

**小林** 小学5年生の時に、後に僕の師匠となる木谷實先生が旭川に巡業でした。



小林さんの師匠の木谷實先生ゆかりの碁盤



小林さんとご家族の皆さん  
小林さんのご自宅でインタビュー

来られ、開かれた指導碁会に参加させていただけたことです。当時は、プロの世界があることも知らず、弟子になるとは夢にも思わなかつたですが早勢先生のご尽力により入門を許され、天にも昇る心地でした。思えば人生の重大な決断でしたが、小学校の卒業式にも出ず、慌ただしく東京に向かいました。

**市長** 弟子入りされてからはどのような生活をされていたのでしょうか？

**小林** 住み込みの内弟子8人の共同生活です。朝から晩まで囲碁の修行生活で、兄弟子たちは強い人ばかりだったので、負けて悔しい思いもたくさんしました。母親から励ましの手紙が届きましたが、寂しさを感じる暇も無いくらい忙しかつたです。一度だけ「今なら帰つてあげてもいいよ」なんて弱音を書いたことがありました。叱責の

市長 弟子入りされてからはどのような生活をされていたのでしょうか？

**小林** 住み込みの内弟子8人の共同生活です。朝から晩まで囲碁の修行生活で、兄弟子たちは強い人ばかりだったので、負けて悔しい思いもたくさんしました。母親から励ましの手紙が届きましたが、寂しさを感じる暇も無いくらい忙しかつたです。一度だけ「今なら帰つてあげてもいいよ」なんて弱音を書いたことがありました。叱責の

**市長** 企業の囲碁会へ指導を行つていた時期もあります。政治家で財務大臣なども務められた与謝野馨先生のところにも2年ほど教えに行つっていました。

**小林** 政治家は囲碁を打つ方が多く、与謝野馨先生はアマ七段の実力でした。

**市長** 結果が出せるようになつたのは遅く、決して順調ではなかつたです。四冠を達成した後、相次いでタイトルを失い無冠の危機に追い込まれた時期もありました。勝負の世界の厳しさと怖さを何度も実感しましたね。せつかくつかんだ大きなタイトルをそつ簡単に手放したくないという強い思いがあつたので、連覇を成し遂げることができたのかもしれません。

**小林** 毎年夏に家族で旭川に帰ります。旭川を思い出すことはありますか？また子供たちに向かたメッセージをお願いします。

**市長** 初の名人位を獲得した時的小林さん

名譽三冠って？

囲碁の棋戦で連続10回以上、または連続5回もしくは通算10回のタイトルを獲得した棋士に贈られる称号を「名譽三冠」と呼ぶ。小林さんは、日本の囲碁界で最も権威があるとされる「七大タイトル（棋聖戦、名人戦、王座戦、天元戦、本因坊戦、碁聖戦、十段戦）」のうち、名譽棋聖、名譽名人、名譽碁聖を獲得し、七大タイトル戦史上初の「名譽三冠」となった。

\*連続10回以上タイトルを獲得した棋士は現役、連続5回もしくは通算10回のタイトルを獲得した棋士は、現役で60歳以上もしくは引退時に名譽称号を名乗ることができる。